

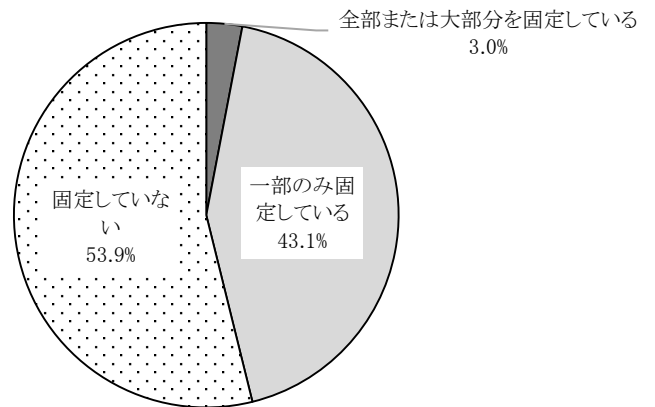
## 防災に関する意識

### 問 32 地震に備えた家具類の固定

あなたのお宅では、地震に備えて家具類などが転倒しないよう固定をしていますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

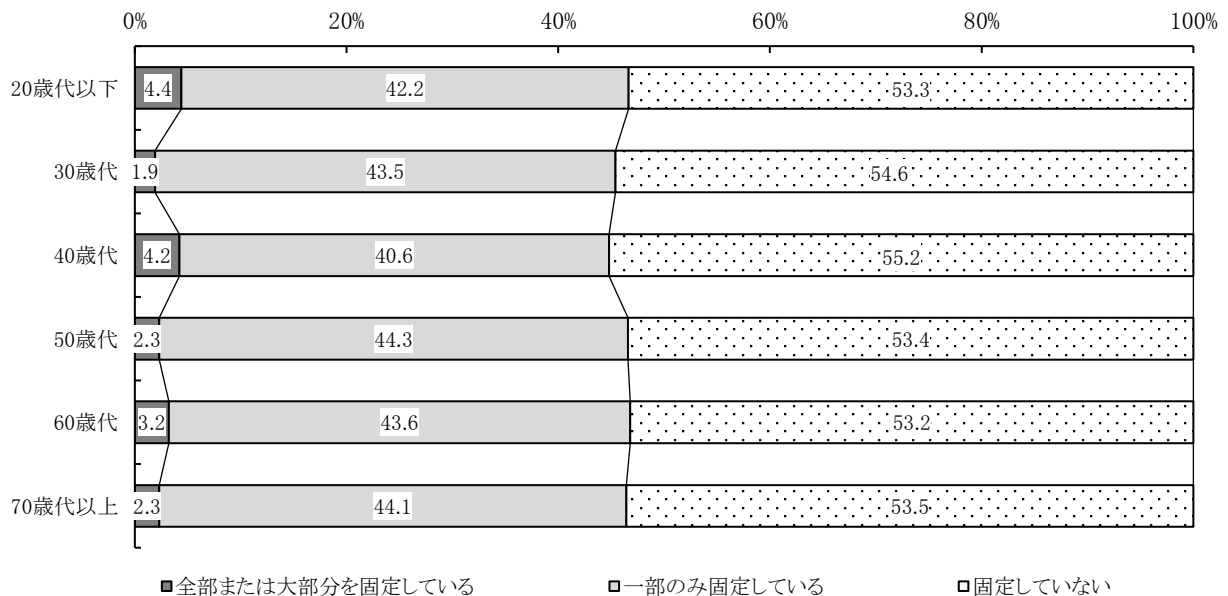
	(%)
1 全部または大部分を固定している	3.0
2 一部のみ固定している	43.1
3 固定していない	53.9

地震に備えて家具類など固定について聞いたところ、「固定していない」と答えた人の割合が53.9%で最も多く、以下「一部のみ固定している」(43.1%)、「全部または大部分を固定している」(3.0%)の順となっている。



#### 【年齢別】

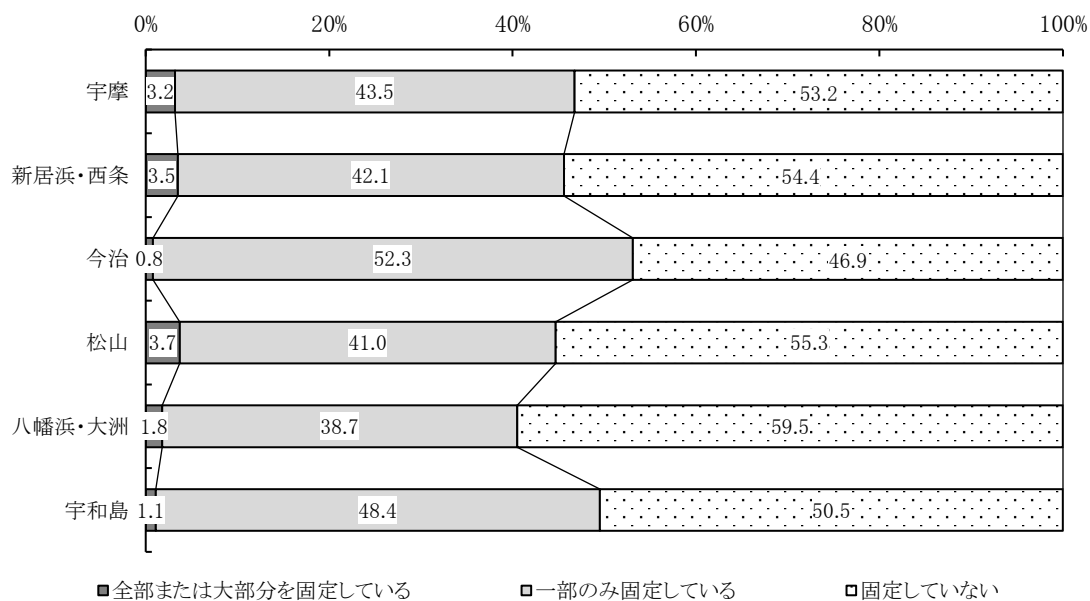
年齢別にみると、全ての年齢層で「固定していない」と答えた人の割合が5割を超え、最も多い。また、「全部または大部分を固定している」と答えた人の割合は、全ての年齢層で5ポイント未満と最も少なくなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、今治圏域を除く全ての圏域で「固定していない」と答えた方の割合が最も多く、5割を超えている。

また、今治圏域は「一部のみ固定している」(52.8%)と「全部または大部分を固定している」(0.8%)の合計の割合が他の圏域に比べて多くなっている。



### 問 32-1 地震に備えた家具類の固定をしていない理由

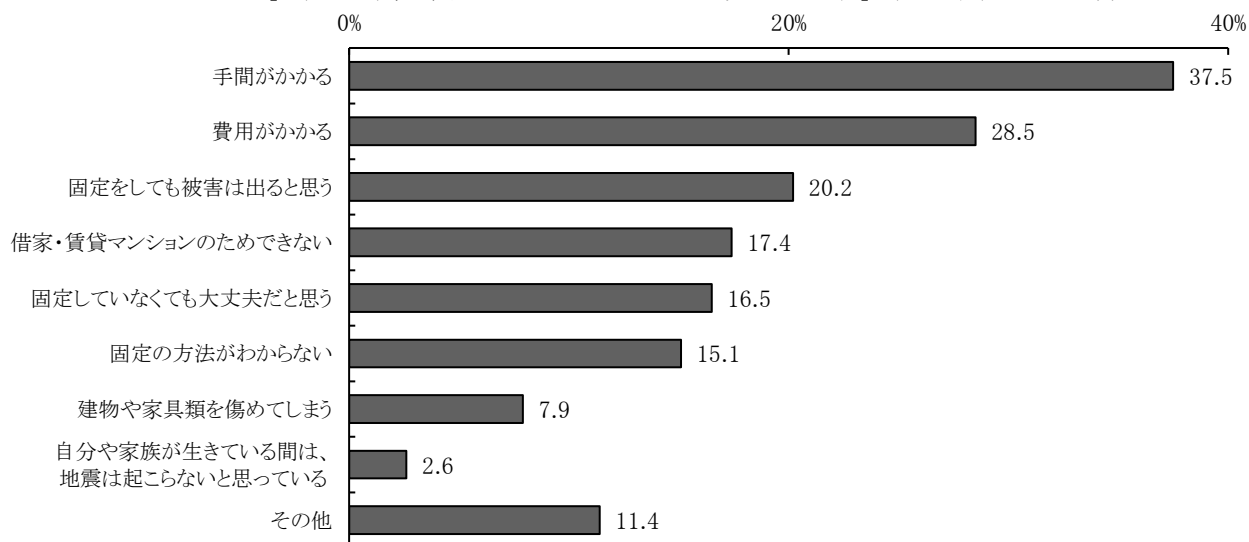
(問32で「固定していない」と答えた方に)

家具類の固定をしていない理由は何ですか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

(回答者=568人) (%)  
(複数回答)

1 手間がかかる	37.5
2 費用がかかる	28.5
3 固定の方法がわからない	15.1
4 借家・賃貸マンションのためできない	17.4
5 建物や家具類を傷めてしまう	7.9
6 固定していなくても大丈夫だと思う	16.5
7 固定をしても被害は出ると思う	20.2
8 自分や家族が活着ている間は、地震は起こらないと思っている	2.6
9 その他	11.4

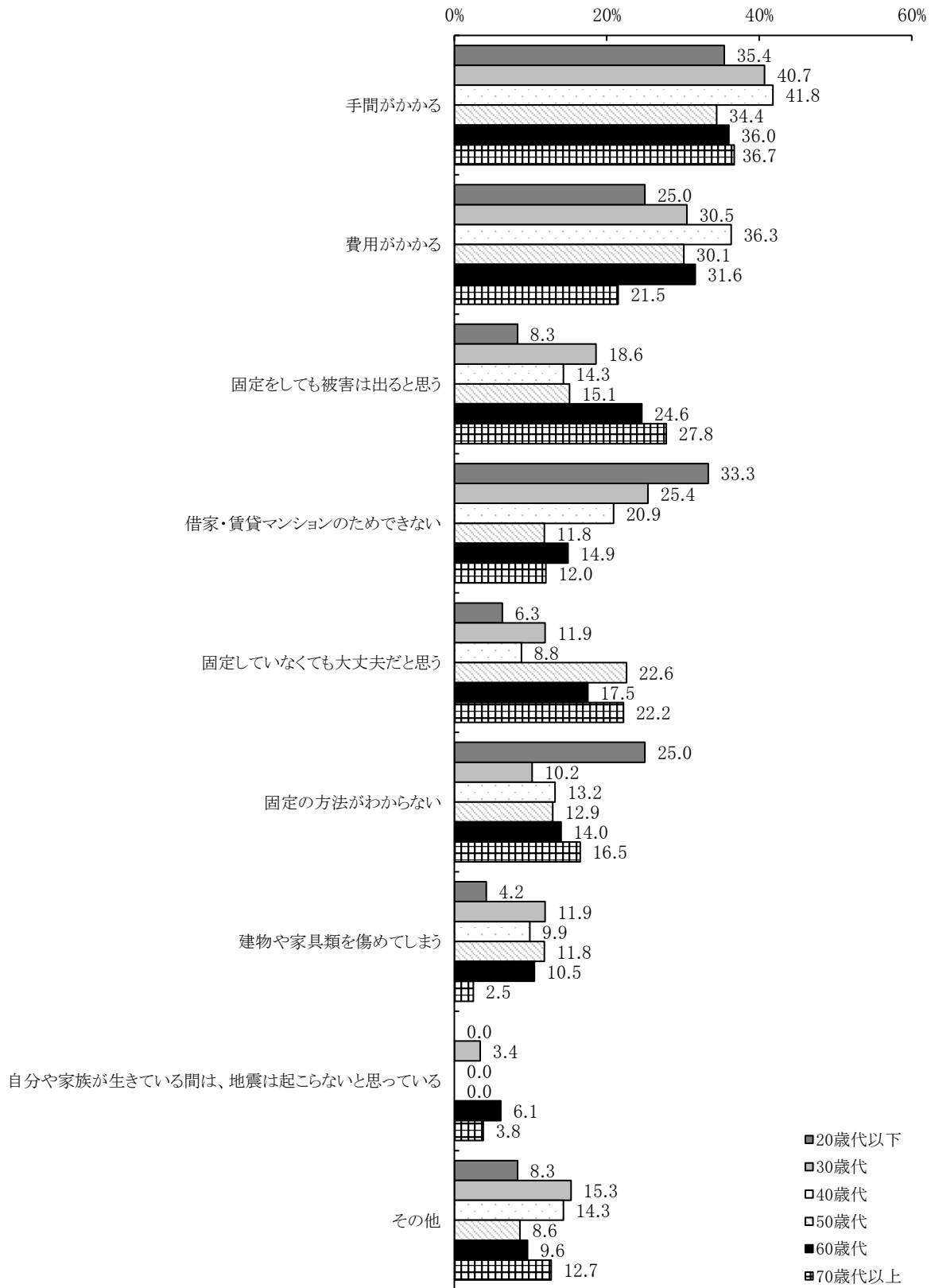
家具類の固定をしていない理由について聞いたところ、「手間がかかる」と答えた人の割合が 37.5%で最も多く、以下「費用がかかる」(28.5%)、「固定をしても被害は出ると思う」(20.2%)、「借家・賃貸マンションのためできない」(17.4%)、「固定していなくても大丈夫だと思う」(16.5%)などの順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「手間がかかる」と答えた人の割合が最も多くなっている。

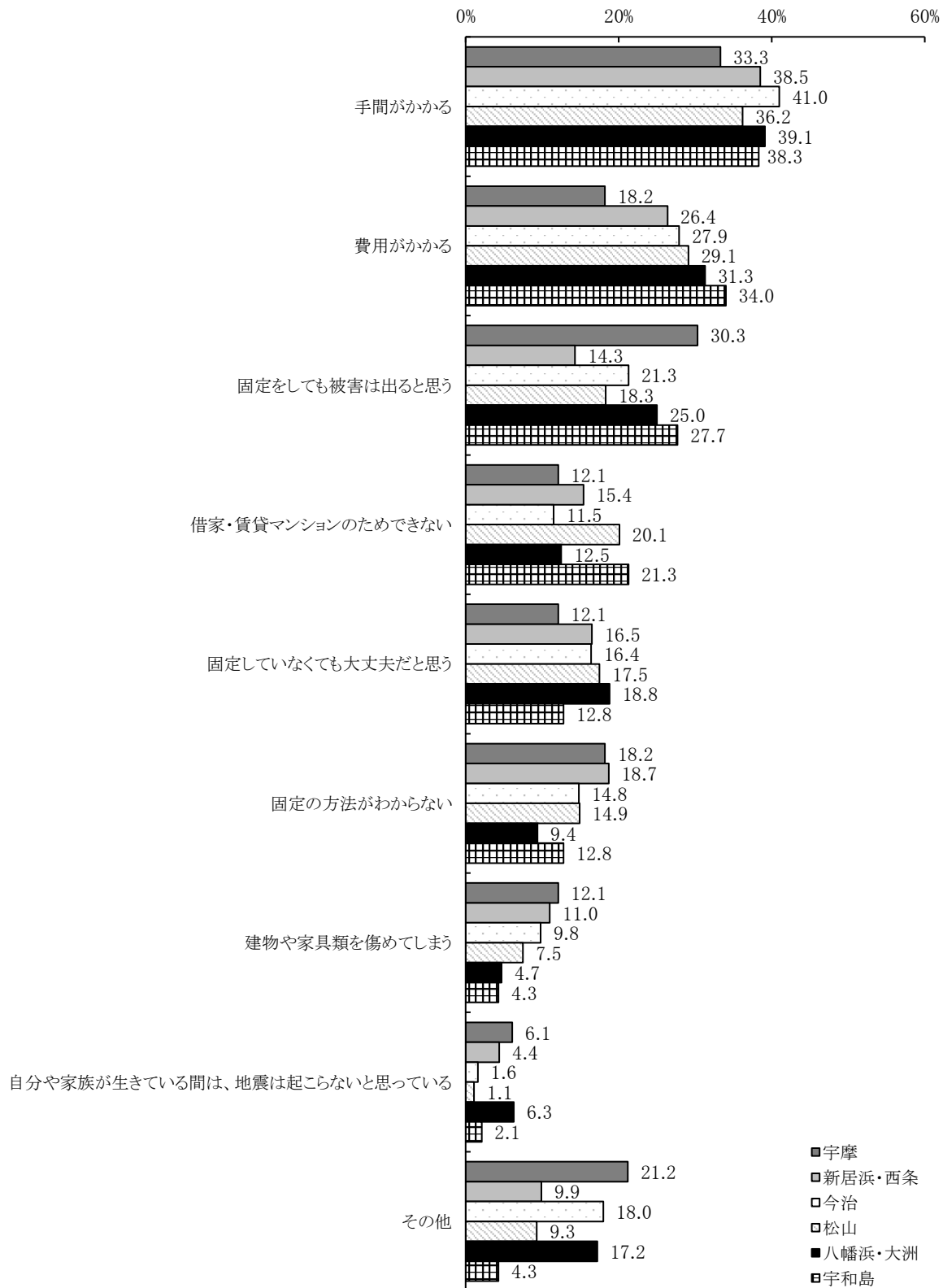
また、「借家・賃貸マンションのためできない」と答えた人の割合は30歳代以下が多くなっている。「固定していなくても大丈夫だと思う」は、50歳代以上が多くなっている。「固定の方法がわからない」は、20歳代以下が25.0%と他の年齢層に比べて特に多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「手間がかかる」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、宇和島圏域では「費用がかかる」と答えた人の割合が多く、宇摩圏域では「固定をしても被害は出ると思う」が最も多くなっている。



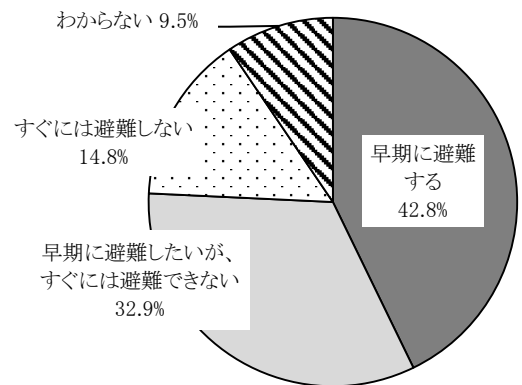
## 問 32-2 災害発生時の早期避難

あなたは、強い地震が発生したとき、又は、津波、洪水、土砂等の災害が差し迫ったとき、早期に避難（※）しますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

※早期避難：昼間の場合は概ね5分以内、夜間の場合は概ね10分以内に避難を開始することを目安とする。

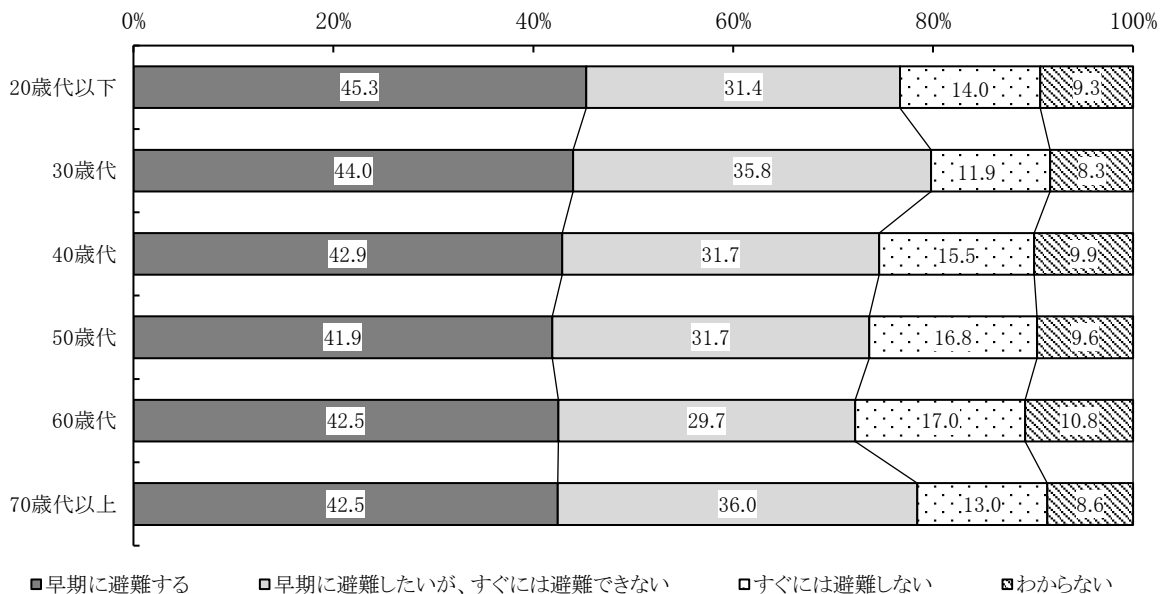
	(%)
1 早期に避難する	42.8
2 早期に避難したいが、すぐには避難できない	32.9
3 すぐには避難しない	14.8
4 わからない	9.5

強い地震が発生したときや津波等災害が差し迫ったときに早期避難するか聞いたところ、「早期に避難する」と答えた人の割合が42.8%で最も多く、以下「早期に避難したいが、すぐには避難できない」（32.9%）、「すぐには避難しない」（14.8%）、「わからない」（9.5%）どの順となっている。



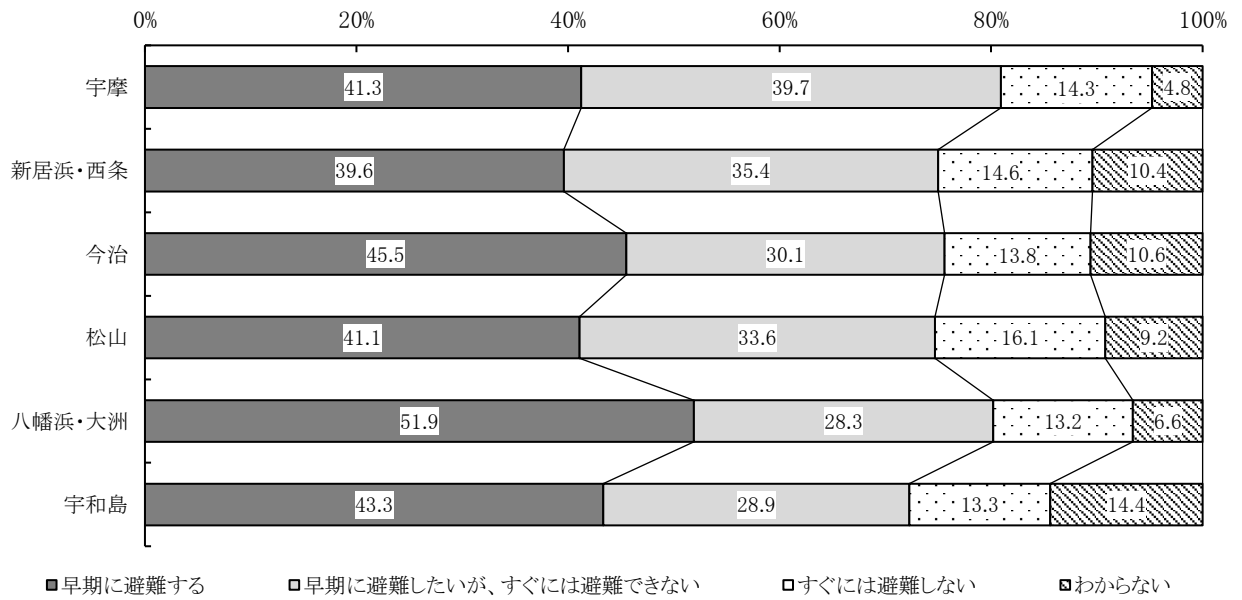
### 【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「早期に避難する」と答えた人の割合が最も多く、4割を超えている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、「早期に避難する」と答えた人の割合は八幡浜・大洲圏域で最も多くなっている。宇摩圏域では、「早期に避難したいが、すぐには避難できない」が他の圏域に比べて多くなっている。



## 県民の備蓄状況に関する調査

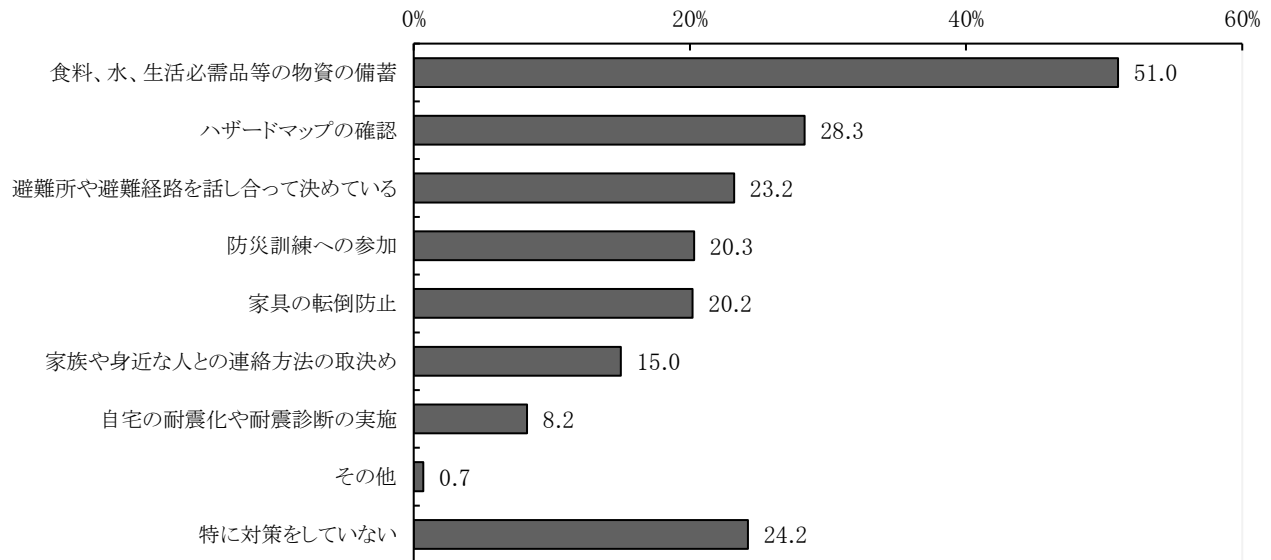
### 問 33 災害に対する備え

あなたのお宅では、災害に対してどのような備えをしていますか。次の中から当てはまるもの全てを選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 食料、水、生活必需品等の物資の備蓄	51.0	51.0
2 防災訓練への参加	20.3	20.3
3 避難所や避難経路を話し合っている	23.2	23.2
4 家具の転倒防止	20.2	20.2
5 自宅の耐震化や耐震診断の実施	8.2	8.2
6 家族や身近な人との連絡方法の取決め	15.0	15.0
7 ハザードマップの確認	28.3	28.3
8 その他	0.7	0.7
9 特に対策をしていない	24.2	24.2

災害に対する備えについて聞いたところ、「食料、水、生活必需品等の物資の備蓄」と答えた人の割合が51.0%で最も多く、以下「ハザードマップの確認」(28.3%)、「避難所や避難経路を話し合っている」(23.2%)、「防災訓練への参加」(20.3%)、「家具の転倒防止」(20.2%)などの順となっている。

一方、「特に対策をしていない」は24.2%となっている。

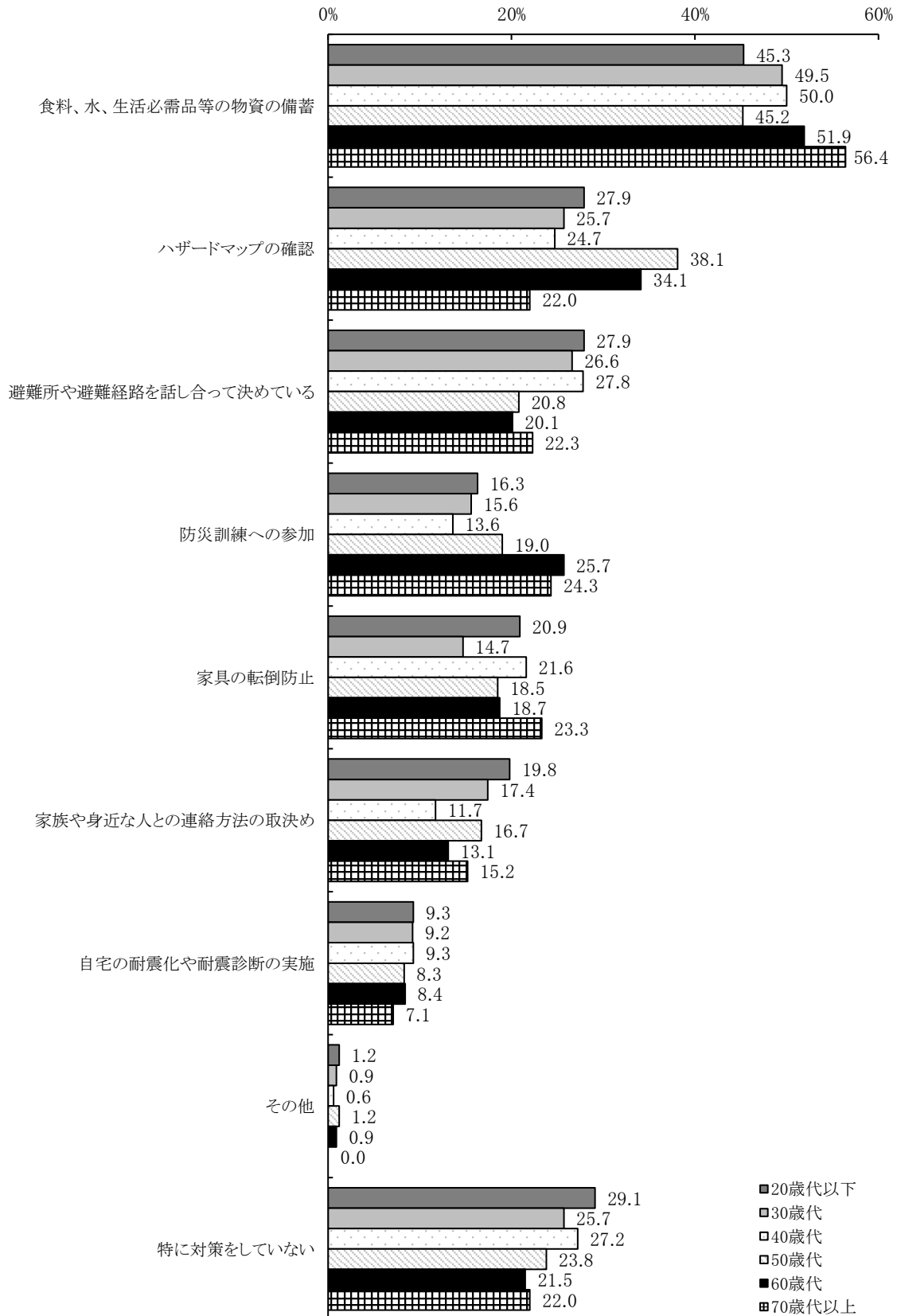




【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「食料、水、生活必需品等の物資の備蓄」と答えた人の割合が最も多くなっている。

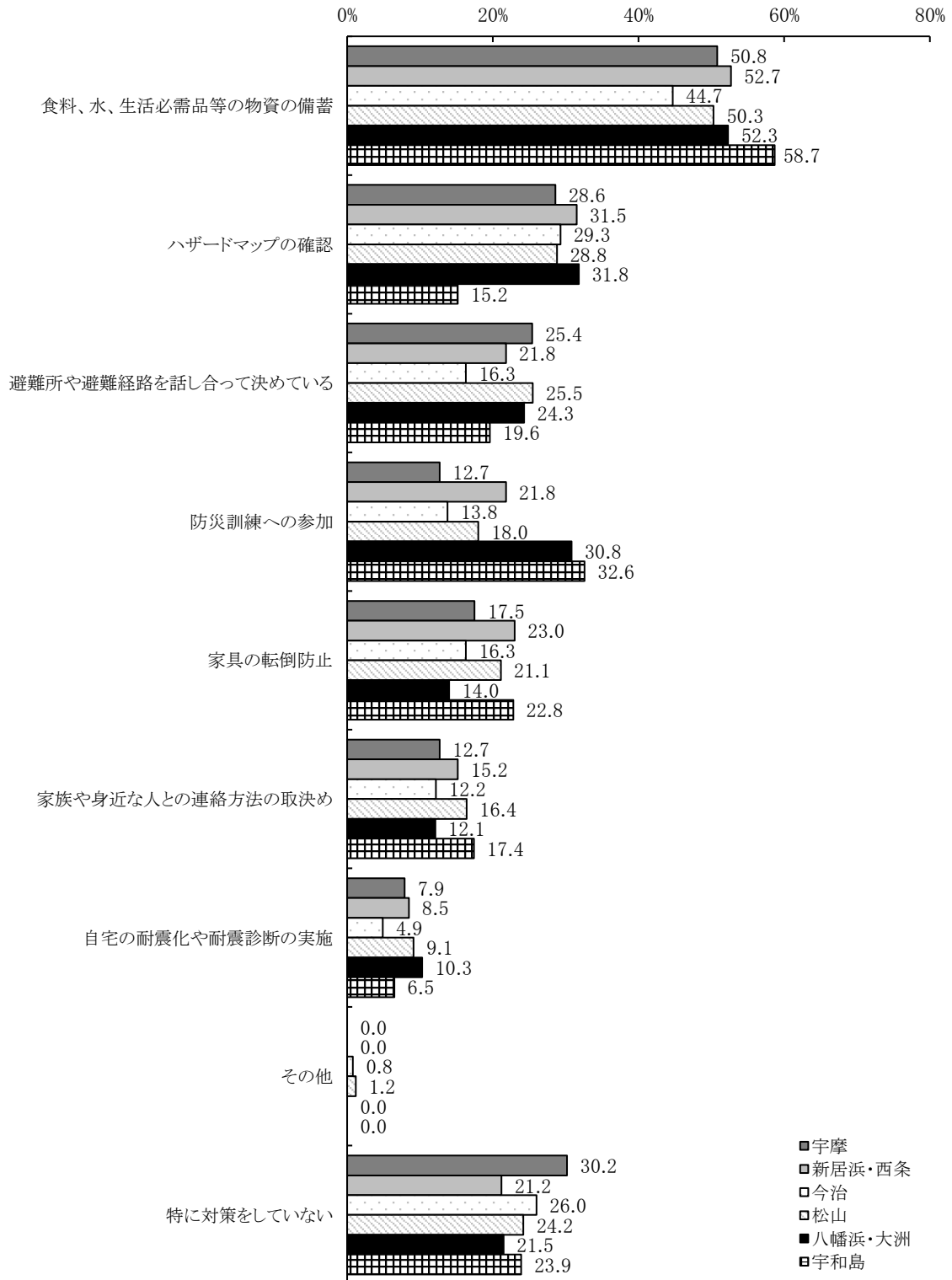
また、「ハザードマップの確認」と答えた人の割合が50歳代（38.1%）と60歳代（34.1%）で他の年齢層と比較して多くなっている。「避難所や避難経路を話し合っている」は、40歳代以下で割合が多くなっており、「防災訓練への参加」は、60歳代以上で他の年齢層と比較して割合が多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「食料、水、生活必需品等の物資の備蓄」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「ハザードマップの確認」は、宇和島圏域（15.2%）が最も少なく、八幡浜・大洲圏域（31.8）で最も多くなっている。「防砂訓練への参加」は、宇和島圏域（32.6%）と八幡浜・大洲圏域（30.8%）で3割を超え、多くなっている。



### 問 33-1 食料、水、生活必需品等備蓄しているもの

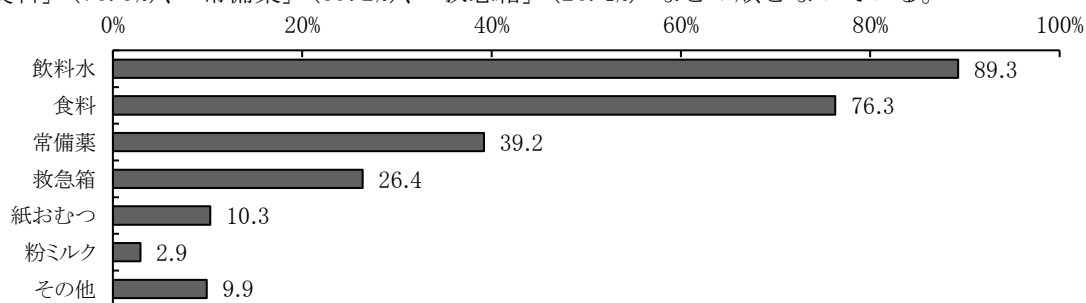
(問 33 で「食料、水、生活必需品等の物資の備蓄」に○をつけた方に)

災害に備え備蓄しているものは何ですか。次の中から当てはまるもの全てを選んで番号を○で囲んでください。

(回答者= 5 2 3 人) (%)  
(複数回答)

1	飲料水	89.3
2	食料	76.3
3	粉ミルク	2.9
4	常備薬	39.2
5	救急箱	26.4
6	紙おむつ	10.3
7	その他	9.9

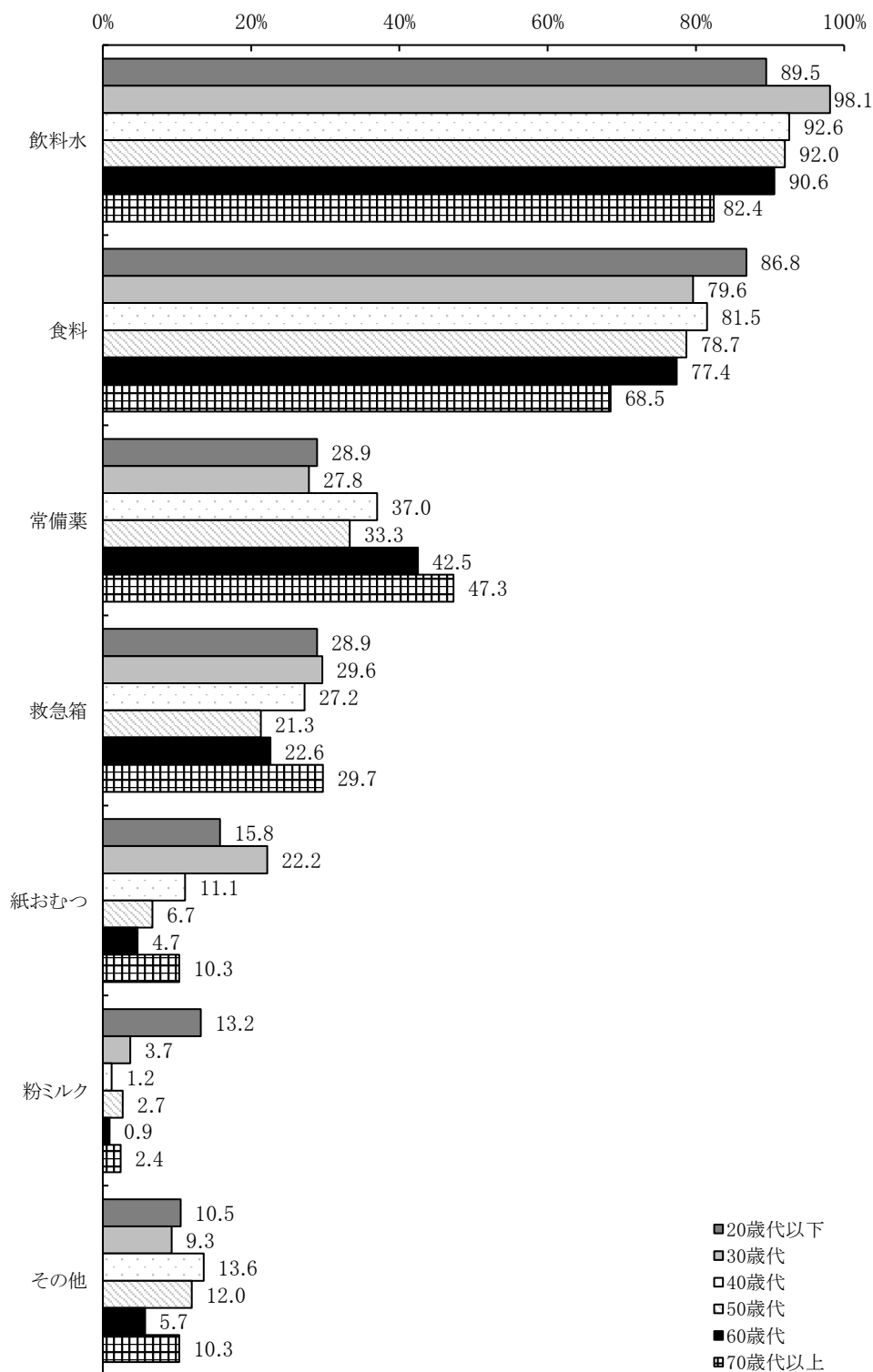
災害に備え備蓄しているものについて聞いたところ、「飲料水」と答えた人の割合が 89.3%で最も多く、以下「食料」(76.3%)、「常備薬」(39.2%)、「救急箱」(26.4%)などの順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「飲料水」と答えた人の割合が最も多く、次いで「食料」となっている。

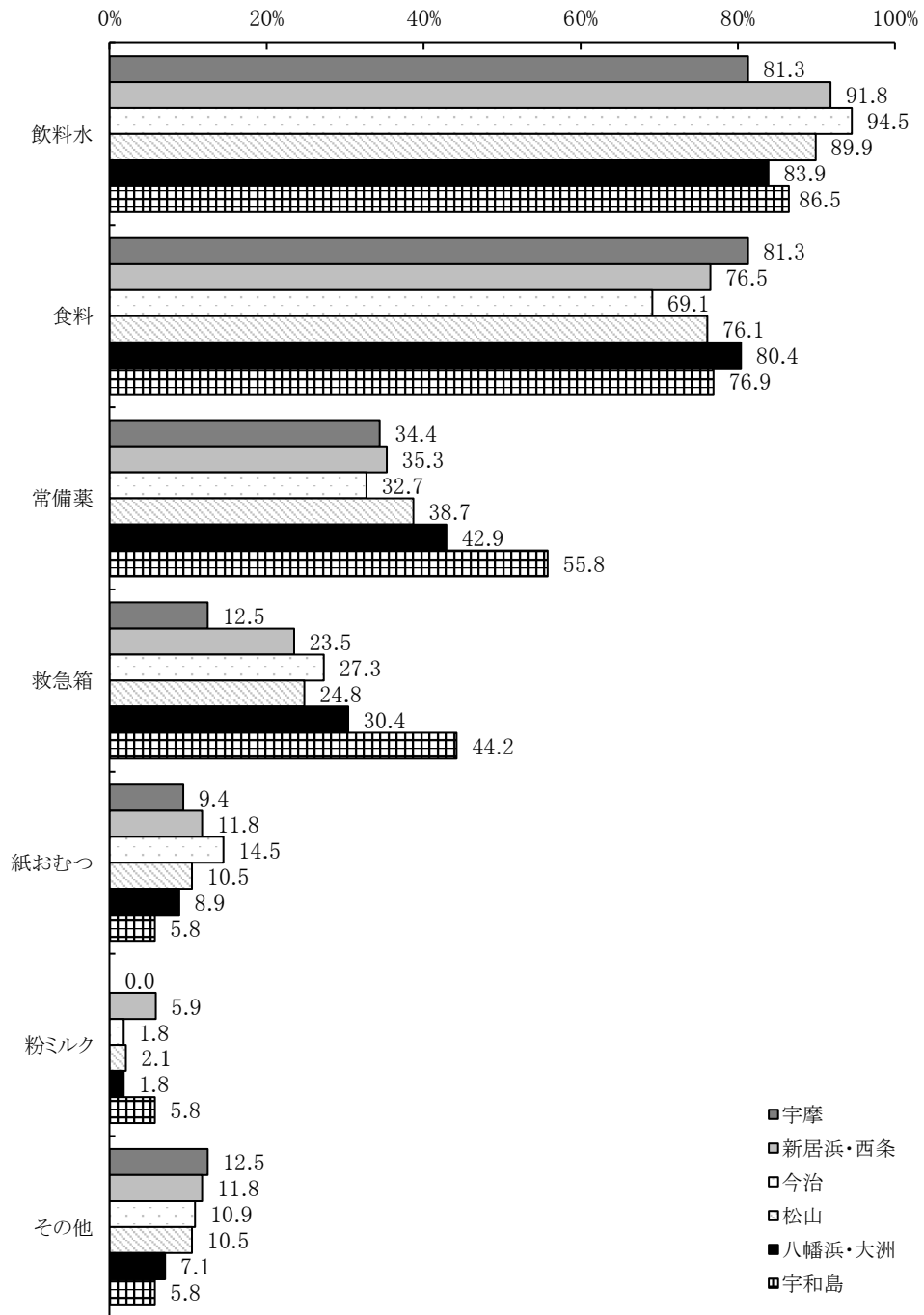
また、20歳代以下は「粉ミルク」と答えた人の割合が、30歳代は「紙おむつ」と答えた人の割合が、60歳代以上では「常備薬」と答えた人の割合が他の年齢層と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域を除く全ての圏域で「飲料水」と答えた人の割合が最も多く、次いで「食料」となっている。宇摩圏域では、「飲料水」と「食料」が共に割合が最も多くなっている。

また、宇和島圏域では「常備薬」(55.8%)と「救急箱」(44.2%)と答えた人の割合が他の圏域と比較して多くなっている。



## 問 33-2 食料の備蓄量

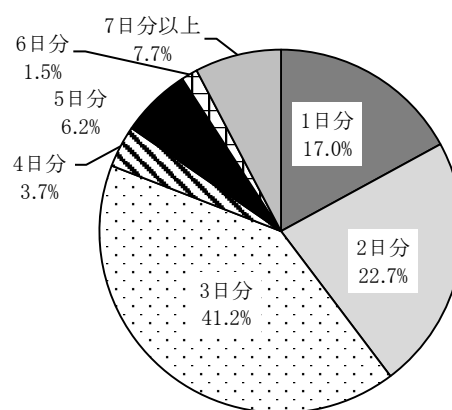
(問 33 で「食料、水、生活必需品等の物資の備蓄」に○をつけた方に)

食料について、何日間の備蓄をしていますか。一つ選んで番号を○で囲んでください。(食料については、3食分で1日分とします。)

(回答者 = 481人) (%)  
(単数回答)

1	1日分	17.0
2	2日分	22.7
3	3日分	41.2
4	4日分	3.7
5	5日分	6.2
6	6日分	1.5
7	7日分以上	7.7

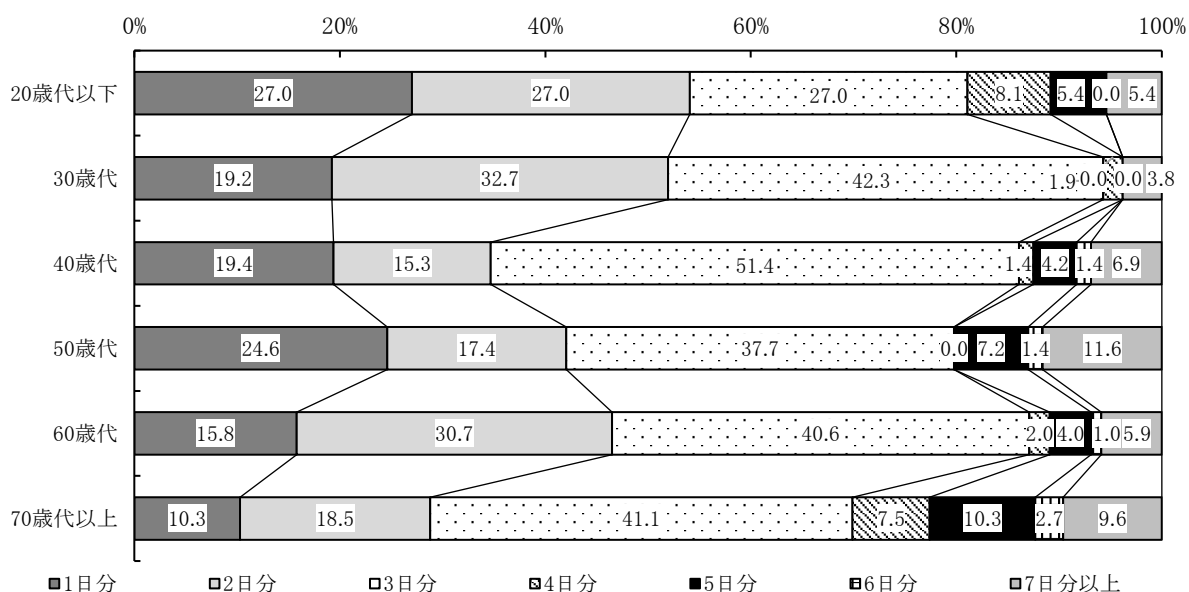
食料の備蓄日数について聞いたところ、「3日分」と答えた人の割合が41.2%で最も多く、以下「2日分」(22.7%)、「1日分」(17.0%)などの順となっている。「4日分」以上の割合は1割未満となっている。



### 【年齢別】

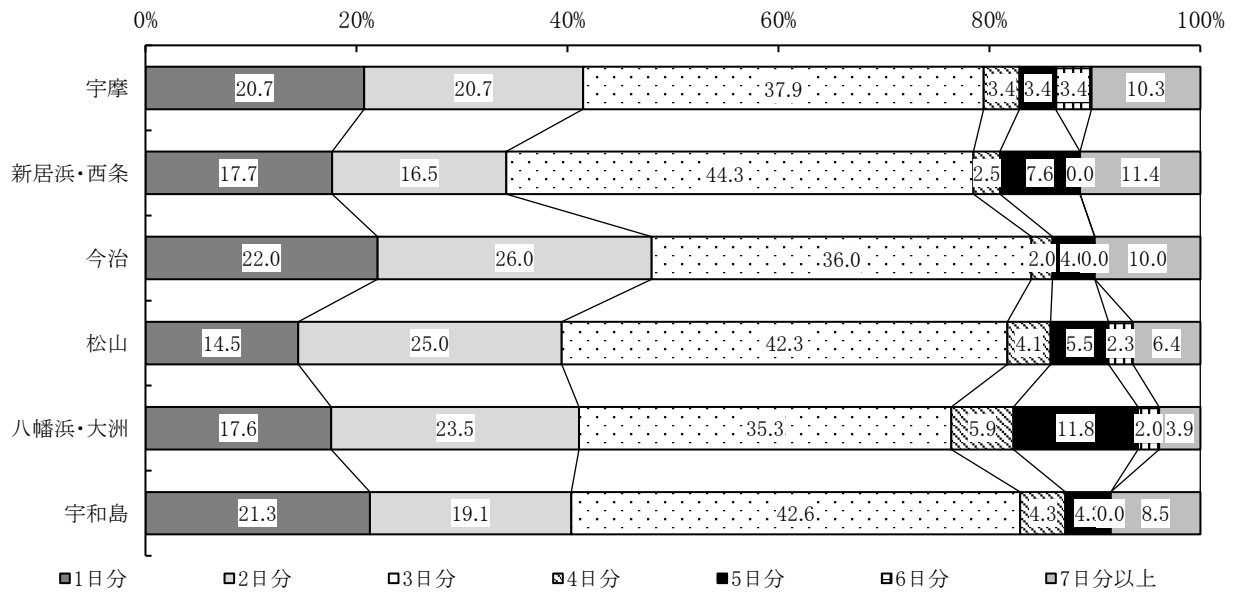
年齢別にみると、20歳代以下を除く全ての年齢層で「3日分」と答えた人の割合が最も多くなっている。20歳代は「1日分」が27.0%で最も多くなっている。

また、70歳代以上は「4日分」以上の割合が他の年齢層と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「3日分」と答えた人の割合が最も多くなっている。  
また、八幡浜・大洲圏域は「4日分」以上が他の圏域と比較して多くなっている。



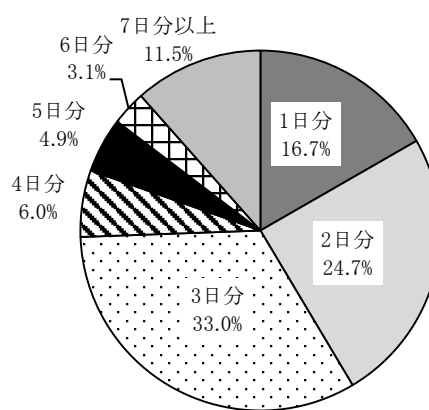
### 問 33-3 水の備蓄量

(問 33 で「食料、水、生活必需品等の物資の備蓄」に○をつけた方に)  
 水について、何日間の備蓄をしていますか。一つ選んで番号を○で囲んでください。  
 (飲料水は、3Lで1日分とします。)

(回答者=485人) (%)  
 (単数回答)

1	1日分	16.7
2	2日分	24.7
3	3日分	33.0
4	4日分	6.0
5	5日分	4.9
6	6日分	3.1
7	7日分以上	11.5

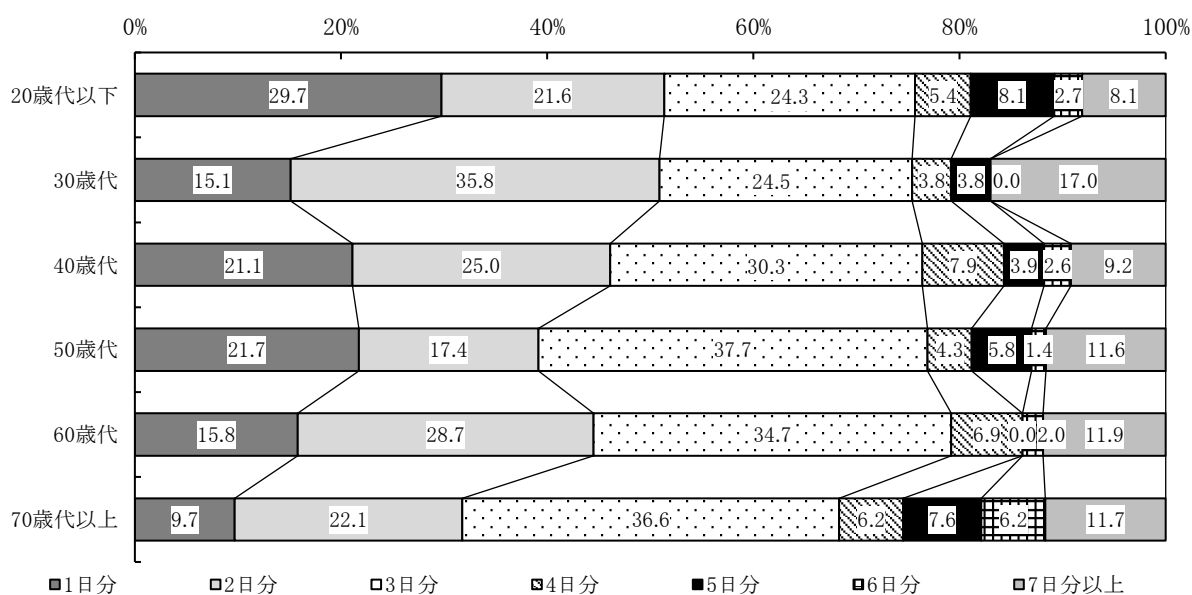
水の備蓄日数について聞いたところ、「3日分」と答えた人の割合が33.0%で最も多く、以下「2日分」(24.7%)、「1日分」(16.7%)、「7日分以上」(11.5%)などの順となっている。



#### 【年齢別】

年齢別にみると、20歳代以下は「1日分」、30歳代は「2日分」、40歳代以上では「3日分」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、70歳代以上は「4日分」以上が他の年齢層と比較して多くなっている。

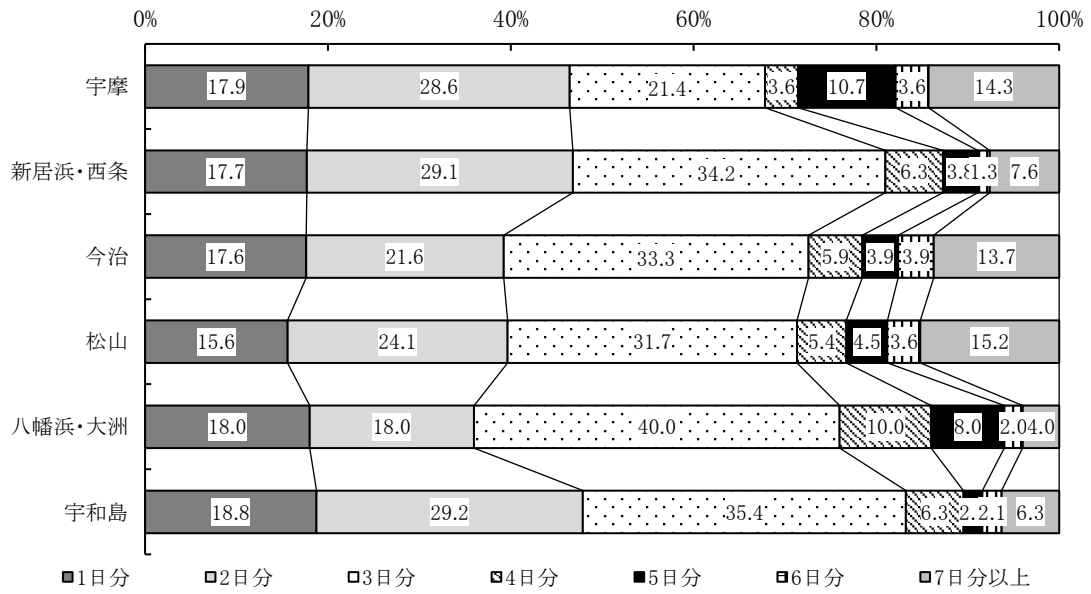




【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域を除く全ての圏域で「3日分」と答えた人の割合が最も多くなっている。宇摩圏域では「2日分」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、宇摩圏域は「4日分」以上が他の圏域と比較して多くなっている。



### 問 33-4 災害に対する備蓄をしない理由

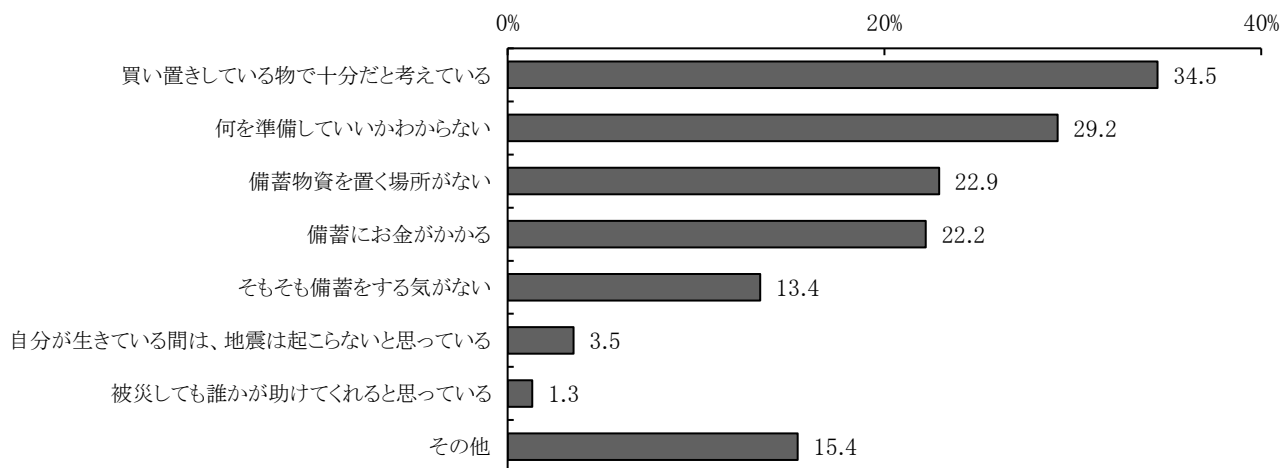
(問 33 で「食料、水、生活必需品等の物資の備蓄」に○をつけなかった方に)

災害に備え準備(備蓄)をしていない理由は何ですか。次の中から二つまで選んで番号を○で囲んでください。

(回答者= 455人) (%)  
(複数回答)

1	そもそも備蓄をする気がない	13.4
2	備蓄にお金がかかる	22.2
3	何を準備していいかわからない	29.2
4	備蓄物資を置く場所がない	22.9
5	買い置きしている物で十分だと考えている	34.5
6	被災しても誰かが助けしてくれると思っている	1.3
7	自分が生きている間は、地震は起こらないと思っている	3.5
8	その他	15.4

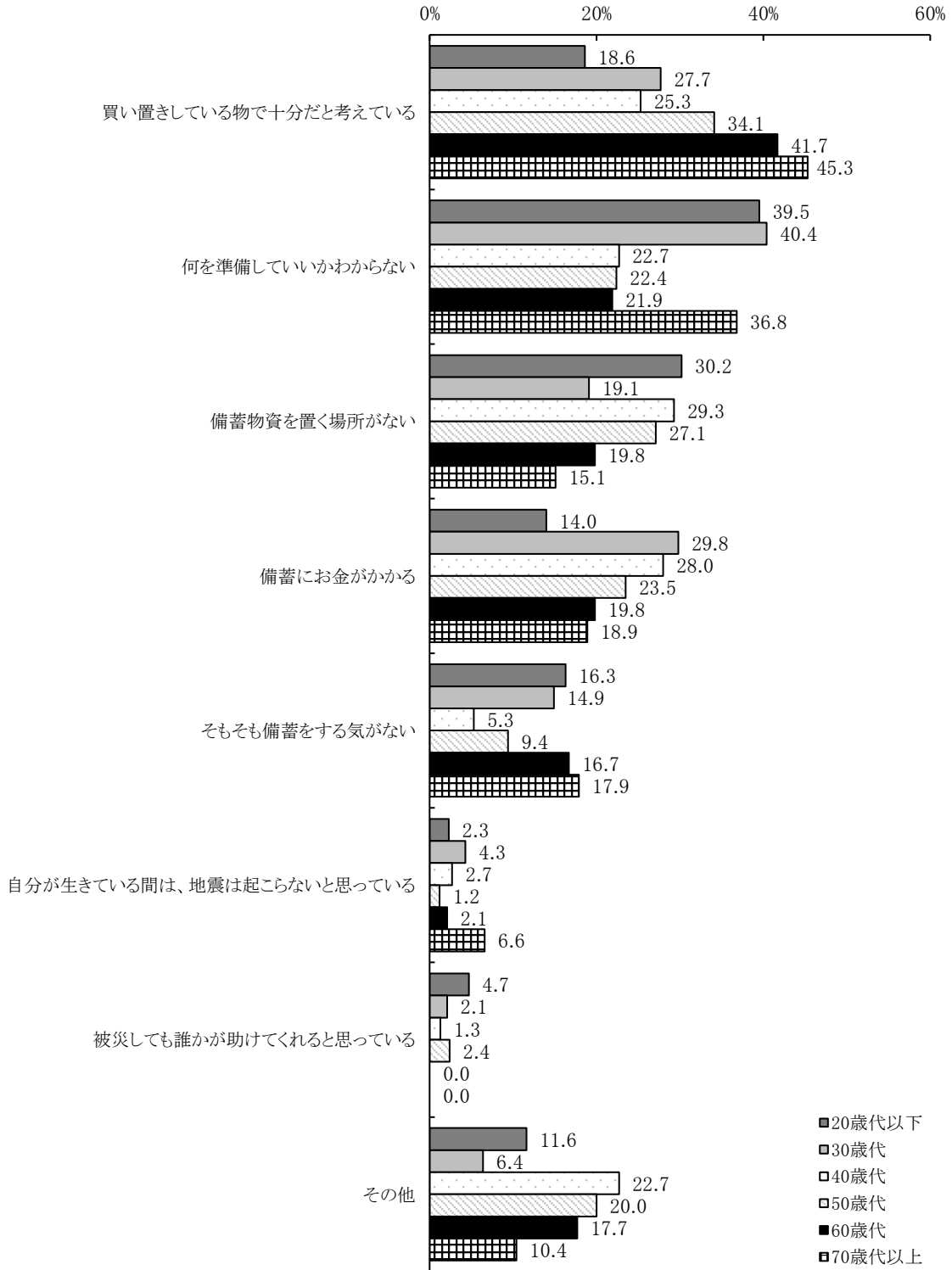
災害に備えをしていない理由について聞いたところ、「買い置きしている物で十分だと考えている」と答えた人の割合が 34.5%で最も多く、以下「何を準備していいかわからない」(29.2%)、「備蓄物資を置く場所がない」(22.9%)、「備蓄にお金がかかる」(22.2%)などの順となっている。



【年齢別】

年齢別にみると、20歳代以下と30歳代では「何を準備していいかわからない」、40歳代では「備蓄物資を置く場所がない」、50歳代以上では「買い置きしている物で十分だと考えている」と答えた人の割合が最も多くなっている。

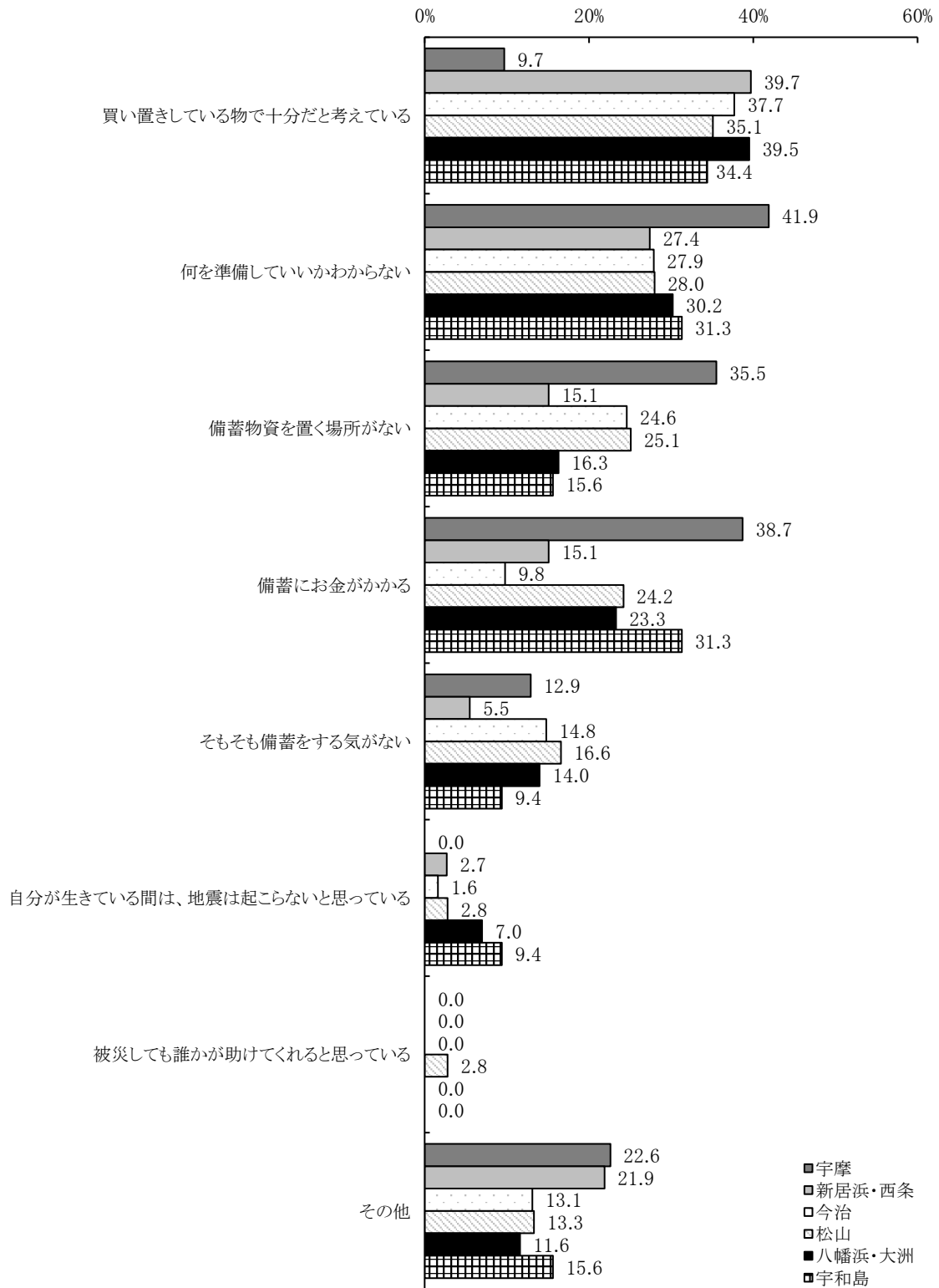
また、30歳代と40歳代では「備蓄にお金がかかる」と答えた人の割合が他の年齢層と比較して多くなっている。「そもそも備蓄をする気がない」は、40歳代と50歳代以外は多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域では「何を準備していいかわからない」、宇摩圏域を除く全ての圏域では「買い置きしている物で十分だと考えている」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、宇摩圏域では「備蓄にお金がかかる」と「備蓄物資を置く場所がない」と答えた人の割合が他の圏域と比較して多くなっている。



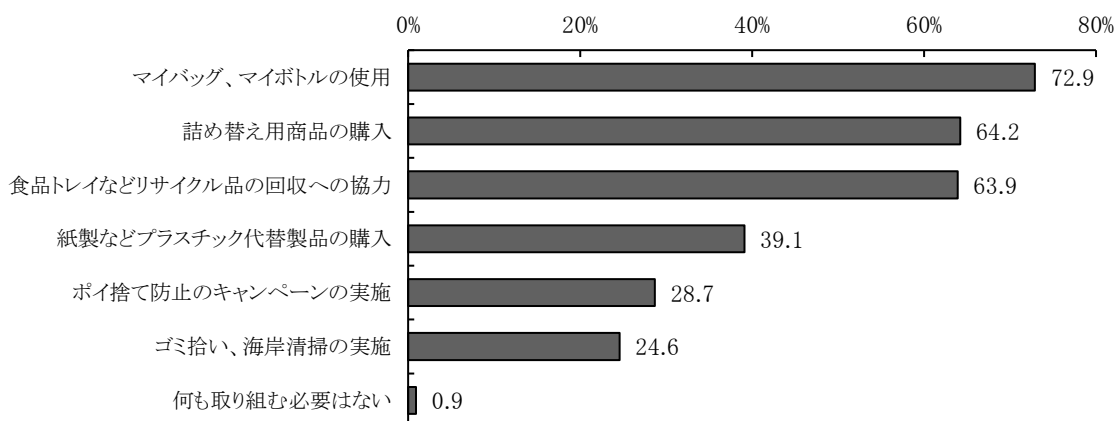
## プラスチックごみの削減

### 問 34 プラスチックごみ削減のための取組み

プラスチックは、短時間で経済社会に浸透し、日々の生活に利便性をもたらしましたが、近年、プラスチックごみの海洋への流出による環境汚染が懸念されています。このため、プラスチックごみの削減のため、これまで以上に取組んでいく必要がありますが、あなたは、プラスチックごみの削減のために、どのようなことに取組むべきと考えますか。次の中からいくつでも選んで番号を○で囲んでください。

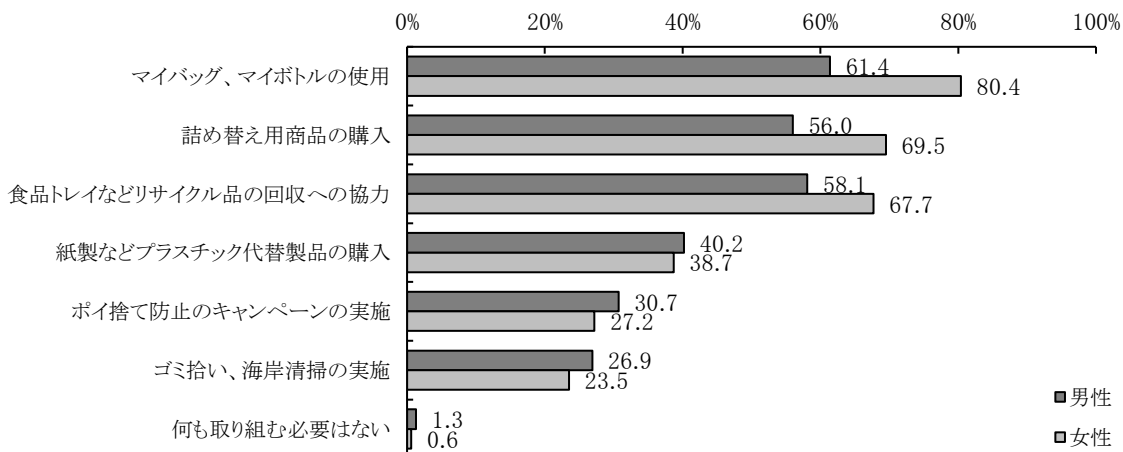
	(複数回答)	(%)
1 マイバッグ、マイボトルの使用		72.9
2 詰め替え用商品の購入		64.2
3 食品トレイなどリサイクル品の回収への協力		63.9
4 紙製などプラスチック代替製品の購入		39.1
5 ポイ捨て防止のキャンペーンの実施		28.7
6 ゴミ拾い、海岸清掃の実施		24.6
7 何も取り組む必要はない		0.9

プラスチックごみの削減のために取組むことについて聞いたところ、「マイバッグ、マイボトルの使用」と答えた人の割合が72.9%で最も多く、以下「詰め替え用商品の購入」(64.2%)、「食品トレイなどリサイクル品の回収への協力」(63.9%)、「紙製などプラスチック代替製品の購入」(39.1%)などの順となっている。



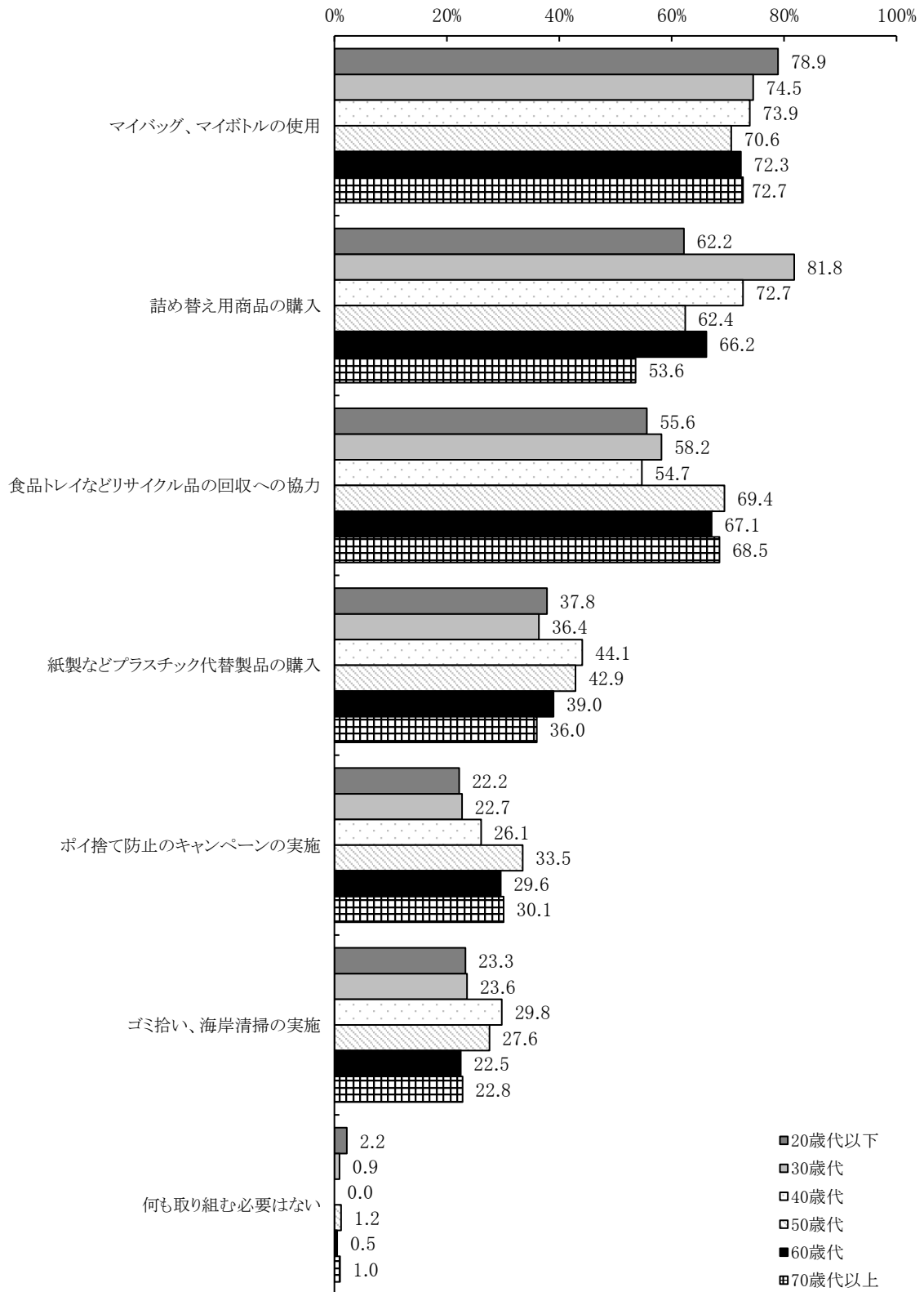
#### 【性別】

性別にみると、「マイバッグ、マイボトルの使用」(男性 61.4%、女性 80.4%)、「詰め替え用商品の購入」(男性 56.0%、女性 69.5%)、「食品トレイなどリサイクル品の回収への協力」(男性 58.1%、女性 67.7%)は女性の回答が男性を上回っている。



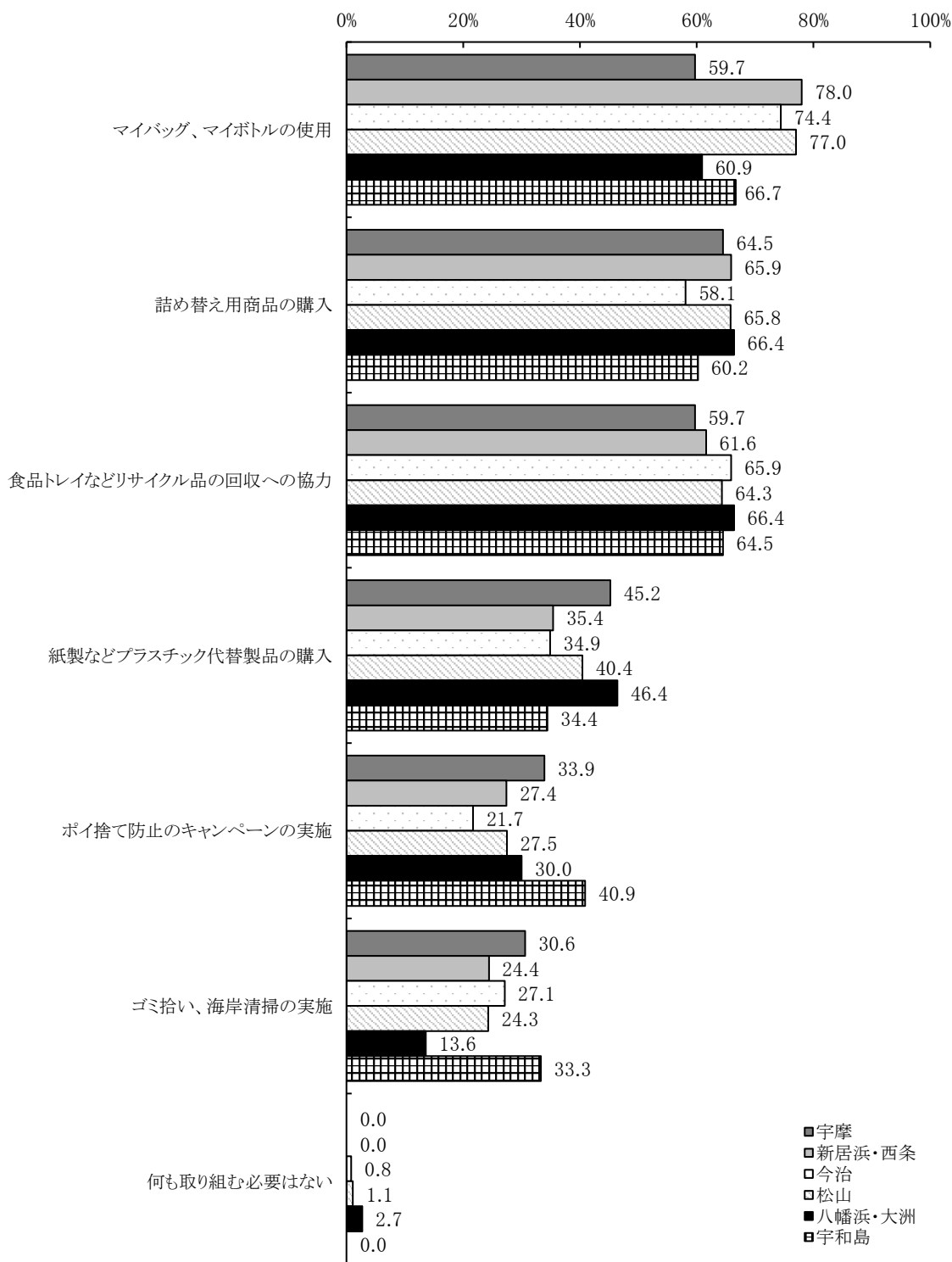
【年齢別】

年齢別にみると、30歳代を除く全ての年齢層で「マイバッグ、マイボトルの使用」と答えた人の割合が最も多くなっており、全ての年齢層で7割を超えている。30歳代は「詰め替え用商品の購入」が最も多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇摩圏域は「詰め替え用商品の購入」、新居浜・西条圏域、今治圏域、松山圏域、宇和島圏域は「マイバッグ、マイボトルの使用」と答えた人の割合が最も多くなっている。八幡浜・大洲圏域は「詰め替え用商品の購入」と「食品トレイなどリサイクル品の回収への協力」が同率で最も多くなっている。

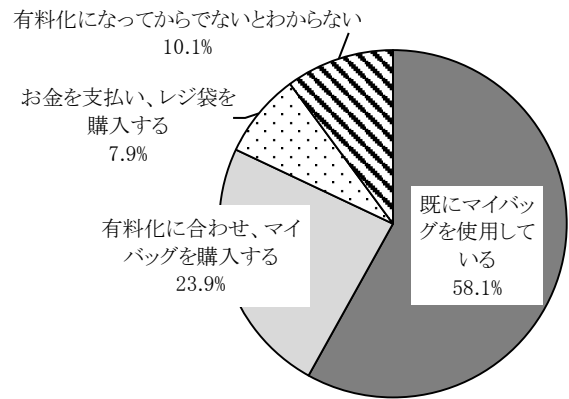


### 問 34-1 レジ袋有料化義務化への対応

プラスチックごみの削減のため、レジ袋の有料化義務化が早ければ、令和2年度から開始される予定です。あなたは、レジ袋の有料化が義務化された場合、どのように対応しますか、次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

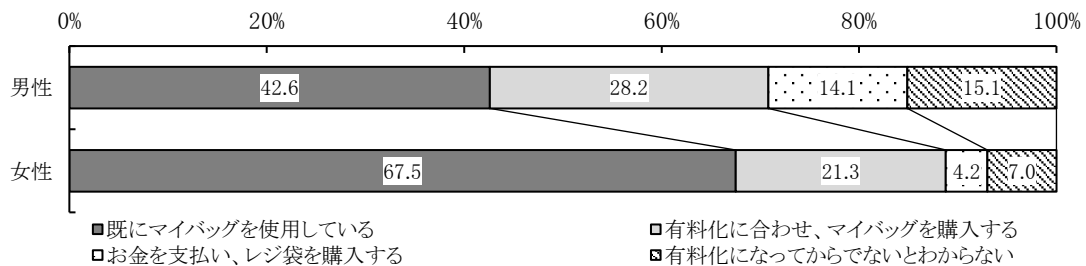
	(%)
1 既にマイバッグを使用している	58.1
2 有料化に合わせ、マイバッグを購入する	23.9
3 お金を支払い、レジ袋を購入する	7.9
4 有料化になってからでないとわからない	10.1

レジ袋の有料化が義務化された場合の対応について聞いたところ、「既にマイバッグを使用している」と答えた人の割合が 58.1%で最も多く、以下「有料化に合わせ、マイバッグを購入する」(23.9%)、「有料化になってからでないとわからない」(10.1%)、「お金を支払い、レジ袋を購入する」(7.9%)の順となっている。



#### 【性別】

性別にみると、「既にマイバッグを使用している」(男性 42.6%、女性 67.5%)は女性の方が 24.9 ポイント男性を上回っている。「お金を支払い、レジ袋を購入する」(男性 14.1%、女性 4.2%)は男性の方が 9.9 ポイント女性を上回っている。

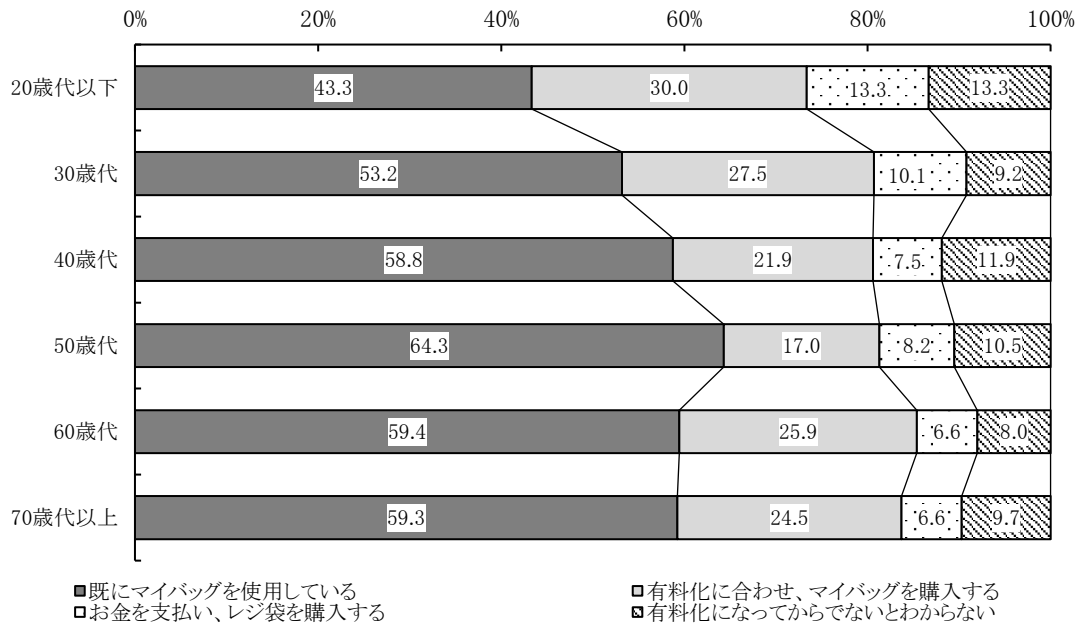




【年齢別】

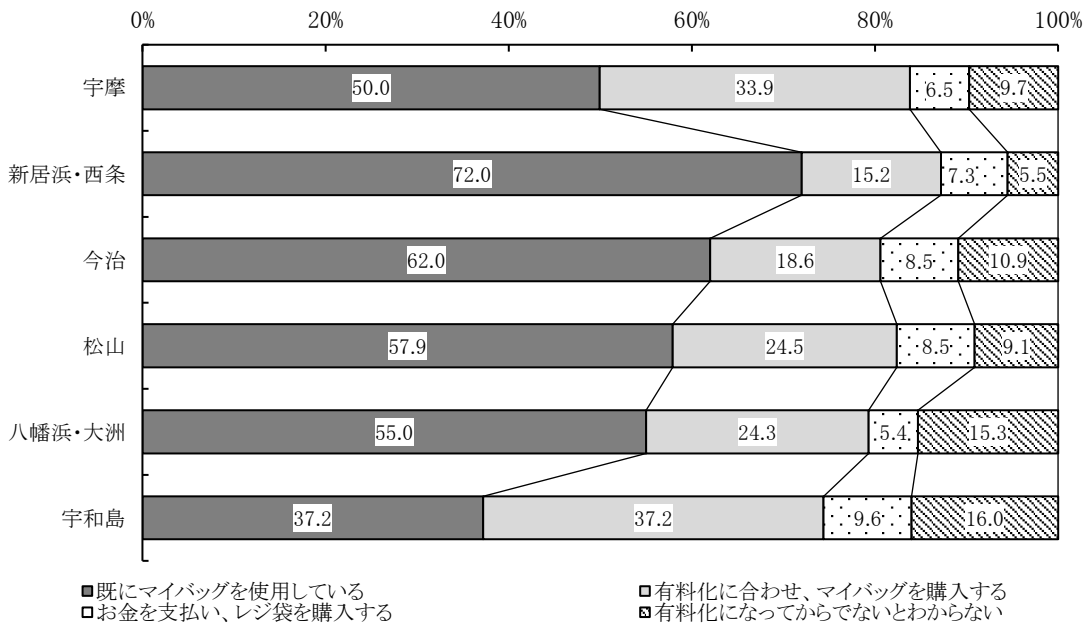
年齢別にみると、全ての年齢層で「既にマイバッグを使用している」と答えた人の割合が最も多くなっており、50歳代の割合が最も多くなっている。

また、20歳代以下では「有料化に合わせ、マイバッグを購入する」(30.0%)、「お金を支払い、レジ袋を購入する」(13.3%)が他の年齢層と比較して多い。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、宇和島圏域を除く全ての圏域で「既にマイバッグを使用している」と答えた人の割合が最も多くなっている。「既にマイバッグを使用している」は新居浜・西条圏域の割合が他の圏域に比べて多い。宇和島圏域は「既にマイバッグを使用している」と「有料化に合わせ、マイバッグを購入する」と答えた人の割合が最も多くなっている。



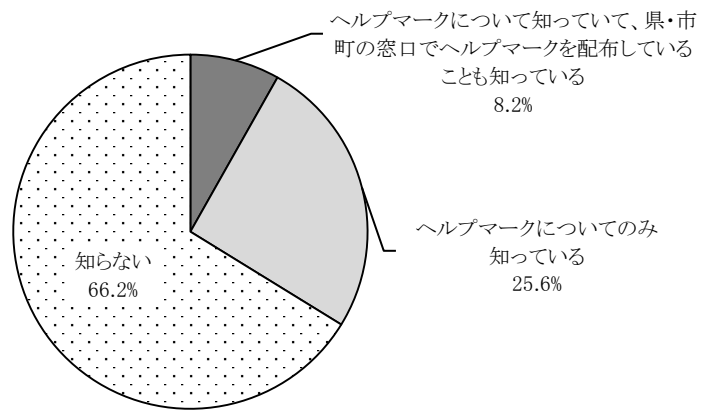
## 障がい福祉課で推進する施策の認知度

### 問 35 ヘルプマークの認知度

県では、平成 29 年 10 月から、外見から分かりにくい障がいのある方が身に付けることで周囲から支援を受けやすくするヘルプマークについて、県と 20 市町で配布をしているところですが、あなたは、ヘルプマークについて知っていますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

	(%)
1 ヘルプマークについて知っていて、県・市町の窓口でヘルプマークを配布していることも知っている	8.2
2 ヘルプマークについてのみ知っている	25.6
3 知らない	66.2

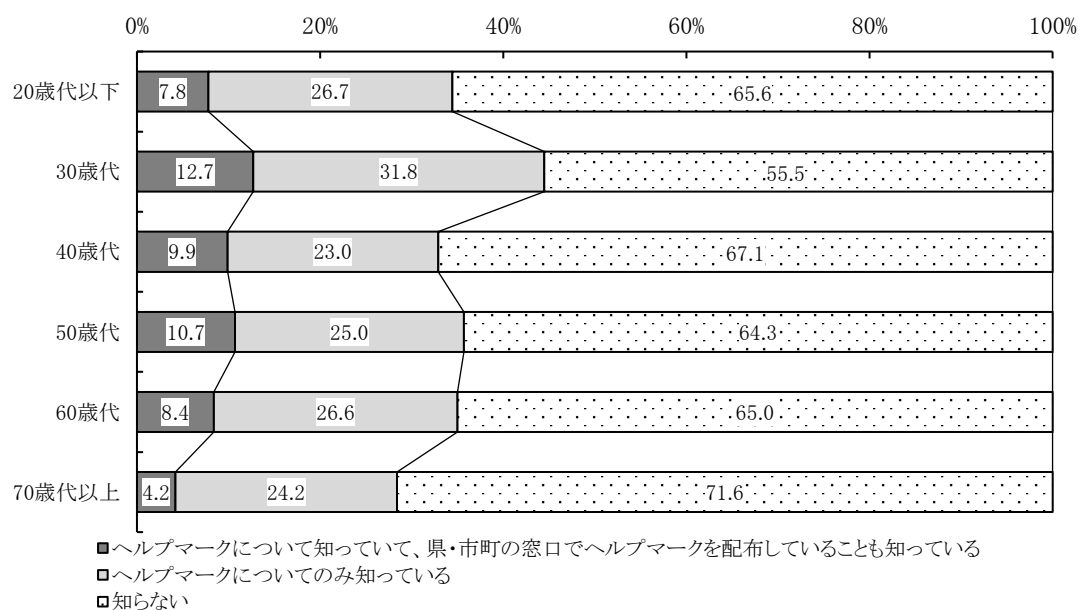
ヘルプマークについて聞いたところ、「知らない」と答えた人の割合が 66.2%で最も多く、以下「ヘルプマークについてのみ知っている」(25.6%)、「ヘルプマークについて知っていて、県・市町の窓口でヘルプマークを配布していることも知っている」(8.2%)の順となっている。



### 【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。

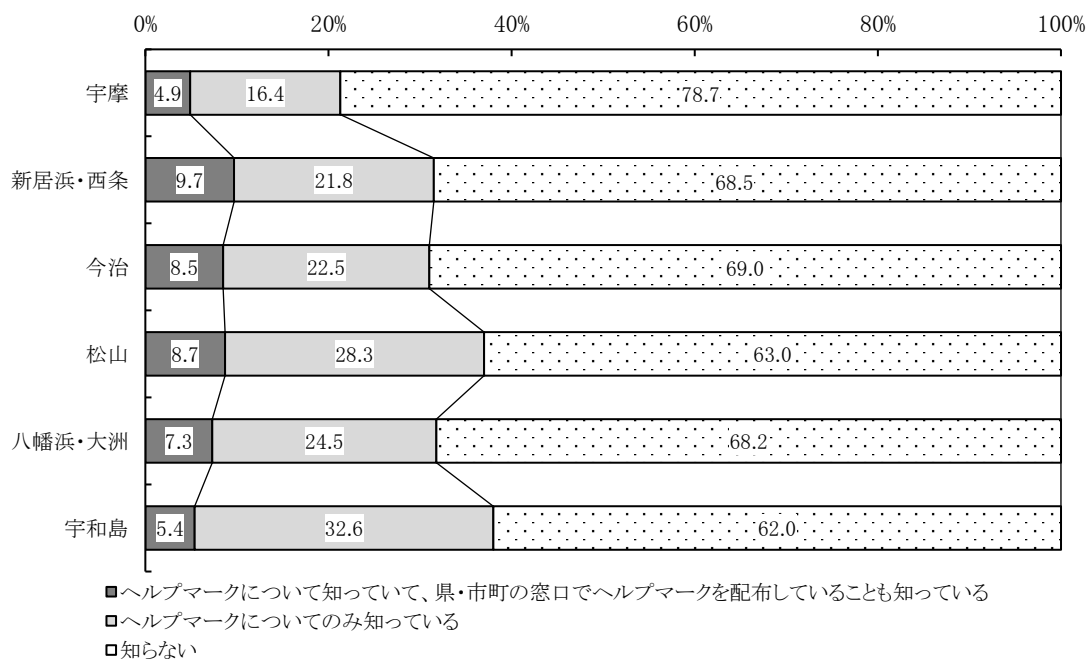
また、30歳代は「ヘルプマークについて知っていて、県・市町の窓口でヘルプマークを配布していることも知っている」（12.7%）と「ヘルプマークについてのみ知っている」（31.8%）に答えた人の割合が他の年齢層と比較して多くなっている。



### 【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、新居浜・西条圏域は「ヘルプマークについて知っていて、県・市町の窓口でヘルプマークを配布していることも知っている」（9.7%）と答えた人の割合が他の圏域と比較して多くなっている。宇和島圏域は「ヘルプマークについてのみ知っている」（32.6%）と答えた人の割合が他の圏域と比較して多くなっている。

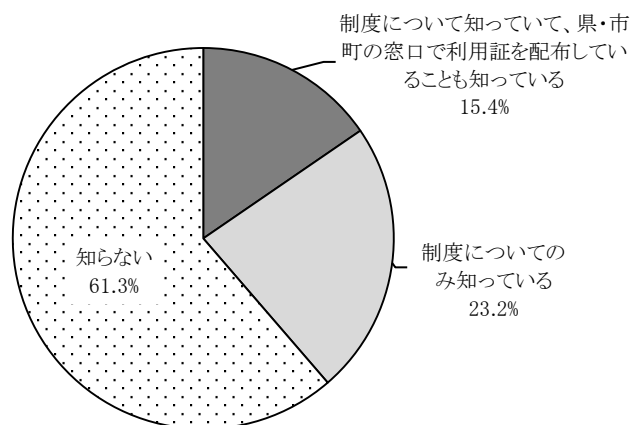


### 問 35-1 パーキングパーミット制度の認知度

県では、平成 22 年 7 月から、身体障がい者等用駐車場について必要な方が利用しやすくするパーキングパーミット制度を導入し、県と 20 市町で利用証を配布しているところですが、あなたは、パーキングパーミット制度について知っていますか。次の中から一つ選んで番号を○で囲んでください。

		(%)
1	制度について知っていて、県・市町の窓口で利用証を配布していることも知っている	15.4
2	制度についてのみ知っている	23.2
3	知らない	61.3

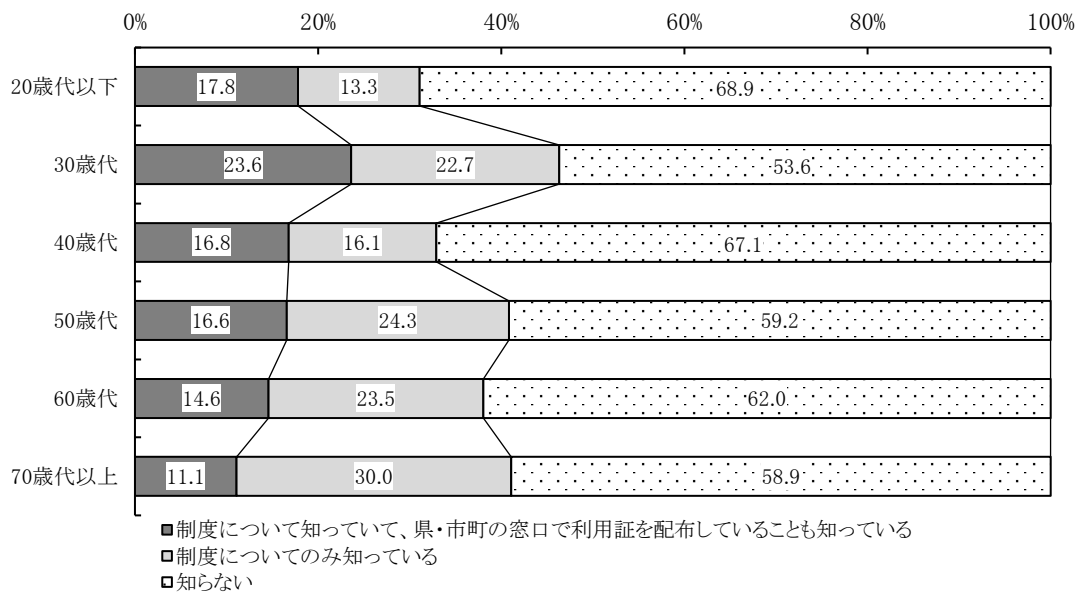
パーキングパーミット制度について聞いたところ、「知らない」と答えた人の割合が 61.3%で最も多く、以下「制度についてのみ知っている」(23.2%)、「制度について知っていて、県・市町の窓口で利用証を配布していることも知っている」(15.4%)の順となっている。



**【年齢別】**

年齢別にみると、全ての年齢層で「知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、30歳代は「制度について知っていて、県・市町の窓口で利用証を配布していることも知っている」と答えた人の割合が他の年齢層と比較して多くなっている。70歳代以上は「制度についてのみ知っている」と答えた人の割合が他の年齢層と比較して多くなっている。



**【生活圏域別】**

生活圏域別にみると、全ての圏域で「知らない」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、八幡浜・大洲圏域は「制度について知っていて、県・市町の窓口で利用証を配布していることも知っている」と答えた人の割合が他の圏域と比較して多くなっている。宇和島圏域は「制度についてのみ知っている」と答えた人の割合が他の圏域と比較して多くなっている。

